

流域下水道管の破損に起因する道路陥没事故に関する  
復旧工法検討委員会（第4回）

議事概要

日時：令和8年3月23日（月） 14時00分～15時20分

場所：都道府県会館410会議室

住所：〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-6-3

1 開会

(1) 開会挨拶

- ・ 北田下水道事業管理者より挨拶
- ・ 日本大学 森田弘昭委員長より挨拶

2 議事

(1) 復旧工事について

(2) 複線化の検討について

3 議事概要

○ 県（事務局）説明

- ・ これまでの委員意見を踏まえて決定した復旧工法について説明した。
- ・ 管更生及び防食処理を行ったうえで、2月中旬に新設管の供用を開始したと報告した。
- ・ 4月中旬に県道を暫定2車線で供用開始する予定であると報告した。
- ・ 管路の劣化状況や補修の可否を踏まえ、まずは中央幹線下流部の複線化を行っていく方針であり、令和8年度より工事に着手予定と報告した。
- ・ 複線化について、委員意見を踏まえて、今後工法の選定や、維持管理を考慮した人孔の配置などを検討していくことを説明した。

○ 委員からの主な質問や意見

(1) 復旧工事について

- ・ 新設管の上流端部と下流端部の腐食リスクが高くなっているため、その特徴も踏まえ、今後も継続したモニタリングが必要と考える。
- ・ 今後のモニタリング（地盤変位や硫化水素濃度の観測など）は、その目的を明確にして（目的に合わせて範囲や時期を絞っていく等）行うべき。

- ・ 点検・調査についてドローンの活用は有効と思われるが、費用面も考慮した活用方針（調査困難箇所を優先するなど）を検討すべき。
- ・ 陥没以外の他の区間も含めて、点検・調査等にあたっては今後の技術開発の状況も注視し、実施方法を検討していくべき。

（２）複線化の検討について

- ・ 中川流域下水道における硫化水素腐食のリスクは不変であるため、流域全体の状態を把握し、優先順位を決めて複線化工事を進めるべき。
- ・ 推進工法の採用など、腐食環境やコスト等の観点から最適な工法を検討すべき。
- ・ 管理用の人孔間隔は一律に設定すると数が過多になるため、維持管理方法も踏まえた必要箇所の抽出が必要である。
- ・ 将来のドローンを用いた維持管理や管更生の作業等を考えて、人孔はその用途や目的に合わせて大小を使い分けて配置するなど工夫が必要である。
- ・ ２本の管の使い分け・運用方法は整理が必要である。

（３）全般

- ・ 復旧工事や今後の維持管理、複線化の検討状況について、基本的な方向性は了承した。
- ・ 次回の委員会の場で区切りをつけるべく、これまでの議論内容や今後のモニタリング方針について、体系的に整理して、報告していただきたい。

以 上